

# 第39回 会長杯争奪支部対抗戦大会要綱

2014年3月17日

主催：秦野市テニス協会  
大会委員会

1. 試合方法 5ポイント(男子D×3、女子D×1、混合D×1)による団体戦(予選：リーグ戦、決勝：トーナメント戦)  
試合順序は男子D No.3、男子D No.2、女子D、混合D、男子D No.1とする。  
全試合6ゲームマッチ、ノーアドバンテージ方式、セルフジャッジとする。(6-6 タイブレイク)  
ただし、天候等により競技方法を変更する場合があります。

3/30雨天のため4/13に順延 (雨天時トーナメント方式)  
予選リーグ組み合わせ

ブロック	A	B	C	D
チーム①	渋沢丘陵TC	マックス	日鍛バルブTC	OHT
チーム②	秦野市役所	フットフォルトB	日立 情IP	フットフォルトA
チーム③	下大槻TC	横河電子TC	パラール	エアリアル
チーム④	サブライズ	鶴巻GTC		

## 【決勝トーナメント】

- 予選リーグ1位、2位チームの合計8チームによるトーナメント戦とする。  
予選リーグの順位は、以下の順で決定する。  
(1)勝敗数、(2)勝利試合数、(3)取得セット率、(4)くじ引き
- 決勝トーナメント表は、予選リーグ終了後に代表者の抽選により決定する。

## 2. 日程/会場

日程 集合時間	3/30(日)	4/13(日)	4/19(土)
	雨天のため4/13に順延	受付開始 8:30 開会式 8:40	受付開始 8:40
会場	運動公園 クレ-6面 9:00~17:00 オム-4面 9:00~13:00	運動公園 オム-4面 9:00~17:00	運動公園 オム-4面 9:00~17:00
試合形式	3 or 4チーム/1ブロック による予選リーグ	トーナメント方式(雨天) (予選リーグ上位8チーム)	トーナメント方式 SF以降
順延時の日程	4/13に順延 (トーナメント方式に変更)	4/19に順延	別途連絡
進行	大会委員		
コートレフリー	大会委員		

4/19(土)が雨天等による延期の場合の予備日は下記とします。

日時:6/1(日) 8時50分受付、9時試合開始、14時まで  
場所:小田急HTG(7番8番クレ-コート)

## 3. 注意事項

- 選手の重複出場は出来ません。(最低男子7名、女子3名必要)  
ただし、選手が不足の場合、他支部との混成チームも可。
- 試合の時の服装はテニスウェア着用を遵守願います。
- 試合前の練習は初戦のサービス4本のみとします。
- 天候不良等で試合開催不明の時も、定刻に会場に集合し本部の指示に従って下さい。

## 4. 本大会に関するご質問の問い合わせ先:

大会委員 岡本 達司(mail: tatsuji.okamoto.jh@hitachi.com)

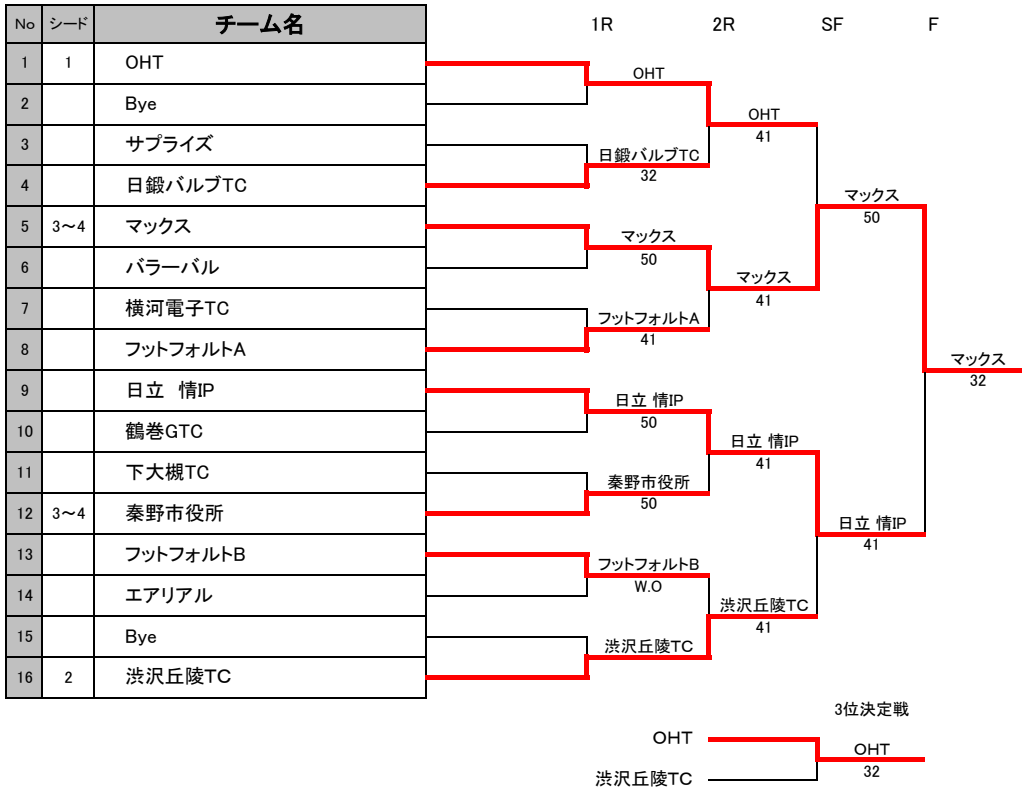
## 5. その他

本大会の日程、試合経過は秦野市テニス協会HPで確認できます。  
<http://www42.tok2.com/home/hadanota/>

以上

第39回 秦野市会長杯争奪支部対抗戦

3/30雨天時のトーナメント



## ※試合規定及び注意事項

1. 日程表の定刻までにプレーが開始出来る状態で受付を済ませて下さい。受付の無い場合、直ちに棄権とみなします。受付を終了していても、試合開始コール時に不在で、試合の進行に支障を来たす時は棄権とみなします。
2. 服装はテニスウェアを着用を着願います。
3. 試合前のウォーミングアップはサービス4本のみです。
4. 審判はセルフジャッジとし、プレーヤー以外のジャッジを禁止します。その他、著しいマナー違反と認められる場合、レフェリーはプレーヤーの失格を勧告することがあります。試合運営全てに関する最終的権限はレフェリーにあるものとします。ルールについては、JTA テニスルールブック 2013に準じます。
5. 当日予定している試合進行により繰り上げて試合を行うこともあります。また、天候不良等の場合、コートレフリーの判断により、順延または会場の変更も変更もありますので各自で大会会場にてコートレフリーに確認してください。
6. 試合が終了したら(予選ブロックの場合はチームの5試合が終了したら)勝者が速やかに本部に報告してください。この時使用したボールを返却願います。
7. 当日天候不順等で試合の有無が不明の場合も、定刻までにコートに集合願います。運動公園およびおおね公園のコート管理事務所では、大会の運営に関する問合せサービスは実施していません。天候不良で大会の開催が判らない時は、大会会場で各自がコートレフリーの指示に従ってください。
8. 参加者は会場の美化に注意願います。(ごみ・空き缶・吸殻等)

## セルフジャッジ試合形式での注意点

1. ネットより自分の側に関する判定は全て自分の責任である。自分で判定出来なかった時は、そのボールはグッドである。但し、相手にその判定についてアドバイスを受けても良いが、相手のアドバイスが最終となる。決して観客の助けを借りてはならない。
2. 判定とコール(アウト・フォルト等)は相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに行う。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出してアウト、フォルトを示し、手のひらを地面に向けてグッドを示す。明らかにアウトと思われるボールも落下前に判定をしてはならない。ダブルスの場合ペアのいずれか一方が行えば最終となる。
3. 新しいポイント、新しいゲーム、新しいセットの始まる前にサーバーは必ずレシーバーに聞こえる様にカウントのアナウンスをすること。
4. サービスのネットをコール出来るのはレシーバー側のみである。誤ってサーバー側がコールした場合サーバー側の失点となる。(1回目警告、2回目以降失点)
5. レシーバー側から見て、どう見てもサーバーがフットフォルトを犯しているとは判断したときは、速やかにレフェリーを呼び、事情を説明し善処してもらうことが出来る。
6. 様々な理由(トイレブレイク、飲物等の補給、着衣の突然の不良化等々不可抗力による事態)により、試合中一時コートを離れる場合は、相手に説明し同意を得なければならない。相手が同意しない場合はレフェリーを呼ぶことが出来る。
7. クレーコートでは、相手選手にボールマークの確認を要求できる。必要であれば相手コートへ行ってボールマークを見てもよい。相手と判定が食い違った場合は、レフェリーが最終判定をする。両者が示すボールマークの位置が食い違う場合、あるいは判定できるほどのマークが残っていない場合は最初のコールが成立する。ただし、必要以上にBMIを申し出る選手には、レフェリーが適切な処置をとる場合がある。クレーコート以外はボールマークのチェックを行うことはできない。
8. 規則の法的解釈等、選手同士で解決できないような紛争発生の場合、いずれの選手もレフェリーを呼ぶことが出来る。
9. レフェリーは、明らかなミスジャッジに対してオーバールールをすることが出来る。